

研究課題名	もやもや病の頭蓋外-頭蓋内バイパス手術後の頭蓋内血行動態変化と術後転帰の検討
研究責任者名	広島大学医系科学研究科脳神経外科 教授 堀江 信貴
研究期間	2022年2月20日(倫理委員会承認後)～2032年12月31日
対象者	2016年1月～2032年3月の間に、もやもや病あるいは類もやもや病、頭蓋内外の主幹動脈閉塞によって脳血流代謝が障害された患者さん(性別は問わない)で外科的血行再建術を行う患者さん。
意義・目的	もやもや病や類もやもや病、あるいは頭蓋内外の主幹動脈閉塞によって脳血流代謝が障害された患者に対する外科的治療として頭蓋外-頭蓋内バイパス手術が行われています。バイパス手術では、手術後に一定の頻度で過灌流状態(血流の供給過多を生じる)や一過性の神経脱落症状を生じることが報告されています。しかしながら、その予測・予防方法は確立されておらず、バイパス術後の長期的な転帰や周術期から慢性期にかけての頭蓋内血行動態の変化、両者の関係に関しても、明らかになっていません。本研究では臨床症状および当院の脳血管撮影や高解像度MRI、SPECTを用いた画像評価や超音波診断装置などMulti-Modalityによる評価をもとに、もやもや病バイパス術後の血行動態の経時的な変化を解明し、術後転帰との関係を明らかとすることを目的としています。さらに、術中採取される患者の組織から血管内皮増殖因子など血管増生に関与する因子の発現を調査、術後血流動態や術後転帰との関係の解明を目指します。
方法	本研究は、診療録(カルテ)情報と手術中に得られる患者さんの組織試料をもとに調査を行います。カルテから使用する内容は病歴、年齢、身長、体重、性別、血液検査、画像所見、超音波所見、病理所見です(個人を特定可能な情報は解析に用いません)。また、患者さんの組織試料は通常、術中に切除破棄する組織(硬膜、血管壁)の残余分を使用します。
共同研究機関	なし
試料・情報の管理責任者	広島大学医系科学研究科脳神経外科 教授 堀江 信貴
個人情報保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に試料・情報を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には、提供していただいた情報や、試料に基づくデータを結果から取り除くことができない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人を識別できる情報は含まれません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel:082-257-5227 広島大学医系科学研究科脳神経外科 医科診療医 前田雄洋